

信濃美術館整備検討にかかる意見交換会（南信地域）

日 時：平成 28 年 10 月 8 日（土）午後 2 時から午後 3 時 45 分

場 所：伊那合同庁舎 302 号会議室

参加者：25 名

概 要

〔主な意見〕

〈運営・整備姿勢〉

- どのような美術館にするのか。県立美術館としての売りがほしい。どのように全国に発信できるかが大切。
- 県内の美術館との差別化が必要。県立美術館でしか展示できないものを企画すれば、全県から足を運んでもらえる。
- 今後、信濃美術館はどのような美術を基本にするのか。美術館の特徴を考えることはとても重要。はじめに施設ありきのような議論が気になる。
- 建設準備委員会を立ち上げ、実際に美術館で働く人の声を聞いて案を練ったらどうか。

〈開館時期〉

- 新しい美術館の完成はいつ頃なのか。

〈常設展示〉

- 大きな展覧会の際には、常設展示室も使えるようにしたらどうか。常設展示室として固定しないほうがよい。
- 言い方は悪いが、東山魁夷氏は自分の美術館を県につくってもらった。25年前は、作品を寄贈して凄いと思ったが、時代が流れ今は違う。東山魁夷館の常設を温存して、本館の展示室が狭いと言うのはナンセンスである。

〈県民ギャラリー〉

- 県立美術館としての美観を損ねずに、利用者に心地よく使ってもらう工夫を考えたいほうがよい。講堂やワークショップルームを県民ギャラリーとして使えるような過大な期待を持たせないほうがよい。

〈美術による学びの支援〉

- 各地域で美術の展覧会を開催している。次世代育成の観点から、県教委と市町村教委が連携し、学校の授業で子どもたちが地域の展覧会を鑑賞できるようにしてほしい。

〈県内美術館との連携〉

- 南信地域の人が、長野の信濃美術館まで行くかが問題。南信地域の美術館（茅野

市美術館、伊那文化会館、飯田市美術博物館）との連携に力を入れてほしい。

- 飯田から長野は、名古屋や東京に行くのと時間的に差ほど変わらない。今後、リニアができると益々長野が遠くなる。飯田下伊那の子どもたちは、信濃美術館の恩恵をあまり受けないのではないか。伊那あたりでも信濃美術館の展示が見られるようにしてほしい。
- 新幹線が出来てから北に投資が集中しており、南はさみしい思いをしている。伊那文化会館はシンプルな造りで使いやすく評判もよいが、これだけでは狭いし、多目的に使える会議室もない。この機会に見直してもらい、南のことも意識してほしい。

<駐車場・アクセス>

- 駐車場を大きく確保し、料金はできるだけかからないようにしてほしい。
- 美術館に行く年齢層は年寄りが多い。駐車場は美術館の近くにほしい。
- 美術館専用の駐車場を考えてもらいたい。

<設計者の選定>

- 有名な建築家はやめてほしい。自分の作品として発表する人はやめてもらいたい。展示する人や見る人の使い勝手を考えてほしい。

<寄附>

- 県民から寄附を募ったらどうか。なるべく大勢の人に応援してもらうことが大切。

<人材の確保>

- プロパーの学芸員が必要。有期雇用では学芸の知識やノウハウが蓄積できない。優秀な学芸員が来てくれるような体制づくりが不可欠である。

(以上)